

ボローニャ大学協定留学 月例報告書（5月）

芸術文化学科4年 土居優莉

Buongiorno!

Buongiorno. 芸術文化学科4年の土居優莉です。5月のボローニャは雨がたくさん降りました。日本の梅雨がやって来たかのように天気の良い日が続き、近くの街では大きな被害が発生した場所もありました。大雨の影響でボローニャ大学のキャンパスがある街でも大きな被害が出たり、多くの電車が運休になっていることを受け、授業をすべてオンラインに切り替えたり、試験を延期したりする対応が取られました。一方で5月の後半には気温が30度近くまで上がる日もあり、完全に夏の空気へと変化しています。

授業のこと

私が今までに受けた授業のほとんどが大学院の授業だったため、ひと足先に5月の頭ですべての授業が終了しました。大学院の授業なので内容はかなり深く、言語もまだまだわからない状態で授業についていくことは決して簡単ではありませんでしたが、留学生がほとんどいない環境で、現地の学生と同じようにすべてイタリア語で授業を受け切ったことにはとても達成感を感じています。初めて授業を受けた9月の頃は、Buongiorno.と言って教室に入るところからずっと緊張していましたが、慣れてくると毎日大学に行くのが楽しくて仕方がありませんでした。イ

タリアでの授業を経験して、学生の学びに対する姿勢がとても積極的だと感じました。私の授業はすべて講義形式の授業でプレゼンテーションなどはほとんどありませんでしたが、学生はただ先生の話聞いているだけではなく疑問があればその場で質問をして解決するし、自分の知識の中から関連する話を取り出して先生と語り合うことすらあります。先生から指名されれば、自身がなくてもとりあえず何かは話します。それも、すぐにです。10人以下の少人数の授業でも、70人いる授業でも状況は同じで、「大勢いる学生のうちの一人」というよりは全員が「わたしが主役」というマインドで勉強している姿が印象的でした。

図書館で勉強

授業が終わり時間ができたので、大学や市立の図書館に行って勉強する機会が増えました。授業の時にたくさん助けてもらったり普段から仲良くしてもらったりしている大学院2年生のグループチャットには毎朝、その日一番に図書館に到着した人から、どの部屋のどのあたりに場所を取ったかやその日の混み具合が送られてきて、みんなで集まって勉強をしています。私もときどきそこに参加していて、試験に向けてみんなで頑張っています。試験日は私の帰国後の7月や9月に設定されて

いるものが多く私は受けることが叶わないかもしれませんが、要点をまとめたノートをわざわざ作ってくれたり、分からないところを丁寧に教えてくれるのでとてもありがたいなと思っています。

友だちの地元ツアー

先日は友だちの家に招待してもらって、地元トスカーナの街を案内してもらいました。繊維産業が盛んなこの街には、工場跡を改装してできた美術館と図書館があります。そこで日本の着物の展示が行われていたので見に行きました。夜には家でピザを作りました。柔らかい生地を伸ばして好きな具材をトッピングして、焼き上がったら家の屋上にある素敵なテラスでたくさんの友だちを招いてみんなでピザパーティーです。外でみんなとおしゃべりをしながらゆっくりと食事をする、なんて豊かな時間でしょう。



↑ピザ作りとパーティーのようす



憧れの世界遺産の街

最後にすこし旅行の話をしてしたいと思います。イタリアに来るずっと前からどうしても行きたかった街、アルベロベッロについに行って来ました。トゥルッリと呼ばれるさんかく屋根の建物が

並ぶ景色で知られている南イタリアのプーリア州にある小さな街です。アルベロベッロはイタリア語で「美しい木」を意味します。1500ものトゥルッリが集まった様子がたくさんの木のように見えたことからこの名前が付けられたと言われています。歩いて1時間くらいでぐるっと一周を見ることができくらい小さな街に、たくさんの観光客が集まって大賑わいでした。アルベロベッロからバーリという大きな街を経由して2時間ほど移動したところにあるマテーラも訪れました。こちらも世界遺産に登録されているサッシと呼ばれる洞窟住居の街です。洞窟住居は崖に造られているため、すぐそばには大自然が広がっていて素晴らしい眺めでした。



↑アルベロベッロのトゥルッリ



↑マテーラ

おわりに

6月も授業はないので、大学の図書館でみんなと勉強できる時間を大切にしつつ、今までボローニャで出会って仲良くしてくれた友だちと過ごす時間も楽しみたいなと思います。公園で本を読んだり散歩をしたりするのも好きなので、ボローニャの街並みを目に焼き付けようと思います。帰国するときに心残りがないように、なるべく多くの経験ができるように努めます。